

東京電機大学の「入学者受け入れの方針」

1. 大学（学部）【学士課程】

東京電機大学は、1907年（明治40年）に廣田精一・扇本眞吉により創立された電機学校が始まりであり、「実学尊重」を建学の精神とし“科学技術の総本山となる”ことを目標としています。1949年（昭和24年）に電機学校を母体として「東京電機大学」を設立し、初代学長 丹羽保次郎が提唱した「技術は人なり」を教育・研究理念に掲げました。2007年には創立100周年をむかえ、20万人余の卒業生を輩出する理工系総合大学として今日に至っています。

本学においては「科学技術で社会に貢献する人材の育成」を使命とし、科学技術の発達に伴い専門分野の融合学際化が進む中、基幹専門分野の教育のみならず、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育むための教育にも重きを置いています。これは、基幹専門知識ばかりでなく高い倫理性を備えた科学技術者のみが、変化し続ける現代社会に常に柔軟に対応できると考えているからです。

このような目標を理解して、工学・理学・情報学分野における科学技術に興味を持ち、卒業後、自立した科学技術者として社会への貢献を目指す人を東京電機大学は歓迎します。大学における教育は、高等学校までの教育と密接な連続性を有しています。本学は理工系総合大学ですが、高等学校までの理系教科・科目はもちろんのこと、文科系の教科・科目についてもしっかりと知識を修得しておくことが重要です。

本学の教職員は、入学した諸君らと共に学び切磋琢磨しながら、一段とたくましくなった卒業生を輩出することに全力を尽くします。

本学では、科学技術が総合的な学問分野であることを考え、以下の入試制度を通して、多様な能力を持った人材を受け入れます。

(1) 一般入学試験

本学における「建学の精神」と「教育・研究理念」を理解し、高校卒業時における基礎的な学力を確実に身に付けている人材を受け入れます。本学独自の一般入学試験では、数学・理科・英語・国語等から指定された科目を選択する学力試験を実施します。さらに幅広い学力を備えた人材を受け入れるために、大学入試センター試験を利用して、総合タイプ・理系タイプ・文理（科目選択）タイプから1つを選択する大学入試センター試験利用試験を実施します。

(2) 推薦入学試験

本学における「建学の精神」と「教育・研究理念」を理解し、基礎的な学力のみならず、確たる志望動機を持ち学習意欲に溢れた人材を受け入れます。推薦入学試験は、基礎的な学力の他に、高校における成績や活動歴、公的資格や社会活動経験等に基づいて実施します。

2. 大学院（研究科）【大学院課程】

学士課程を修了し、さらに高度専門知識を修得するために修士・博士課程が設置されています。

修士課程においては、学士課程における基礎専門知識を十分身につけ、専門分野における基礎的な問題を自立的に解決する意欲を持った人を受け入れます。

博士課程（後期）においては、専門分野における基礎的な問題を解決できる能力を有し、研究者として自立できる自発的能力を修得しようとする意欲を持った人を受け入れます。

本学では、以下の入試制度を通して、多様な能力を持った人材を受け入れます。

(1) 一般入学試験

修士課程においては、本学における「建学の精神」と「教育・研究理念」を理解し、学士課程における専門知識を十分身につけ、学習意欲に溢れた人材を受け入れます。本学独自の学力試験及び面接試験を実施します。

博士課程（後期）においては、本学における「建学の精神」と「教育・研究理念」を理解し、修士課程までの専門知識を十分身につけ、学習・研究意欲に溢れた人材を受け入れます。本学独自の面接試験を実施します。

(2) 推薦入学試験

修士課程においては、本学における「建学の精神」と「教育・研究理念」を理解し、学士課程において良好な成績を収め、学習意欲に溢れた人材を受け入れます。本学独自の面接試験を実施します。

博士課程（後期）においては、本学における「建学の精神」と「教育・研究理念」を理解し、修士課程において良好な成績を収め、学習・研究意欲に溢れた人材を受け入れます。本学独自の面接試験を実施します。

未来科学部における入学受入れの方針

未来科学部の教育理念は「プロの能力、豊かな教養」を身につけた、未来を志向し、社会の創造に携わる技術者を育成することであり、本学部は、「プロの能力、豊かな教養」に強い共感を有し、社会に貢献することに強い関心を有する学生を受け入れます。

○ 建築学科

安全かつ快適な生活を支え、心安らぐ豊かな空間をつくり出すのが建築の役割です。建築学科では建築の未来を築いていくために、実践力を備え、国際的にも活躍できる設計者、技術者、研究者を養成することを目的としています。高度な専門性を身につけるための完全習熟教育システム、他学科と連携して行われる先端IT技術を取り入れたカリキュラム、早期に仕事の現場を肌で感じる長期インターンシップなど、さまざまな角度から学びを展開し、広く社会で通用する実践力と、豊かな表現力を身につけます。この理念に共感し、地域の環境と建築の技術・文化に興味を持ち、将来建築分野で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ 情報メディア学科

現代社会におけるわたしたちの生活は、さまざまな情報技術によって形作られています。コミュニケーションの形態から、学び、遊びの形態まで、情報技術によって新たな魅力を持った姿に変容しています。情報メディア学科ではメディア学とコンピュータサイエンスを融合し、デザイン、表現、技術などさまざまな観点から情報とメディアへの理解を深めることで、高度情報化社会の基盤をしっかりと支え、次世代の技術を自ら生み出していくことのできる人材を育成します。この理念に共感し、情報処理やメディア処理に関して強い関心を有し、情報メディア分野で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ ロボット・メカトロニクス学科

機械工学、電気電子工学、情報工学、制御工学などの専門知識をベースに、数学的なモデリング力とデザイン力を駆使することで実現される先端的なメカトロニクス技術。それを身につけたエンジニアは、科学、産業、環境などあらゆる分野において活躍することが可能となります。ロボット・メカトロニクス学科では、自在に動くロボットなどをつくり上げる実習や関連理論の講義・演習を通して、学生自身の知識と技術、豊かな創造性を養い、未来につながる知的システムを生み出せる技術者を育成します。この理念に共感し、確かな土（基礎力）をベースに、高度な専門力を身につけ、意欲的かつ独創的な研究者・技術者として社会に貢献したいと考えている学生を受け入れます。

工学部における入学者受け入れの方針

科学技術の中核をなす工学の専門的な知識・技術を備え、安全で快適な社会の発展に貢献できる技術者を育成するという工学部の教育理念を十分に理解し、本学部を志望する理由が明確であり、工学にふさわしい基礎学力と資質を有している学生を受け入れます。

○ 電気電子工学科

エコエネルギー、生体・情報システム、スマートシステム、エレクトロデバイス、家庭用電子機器、生産技術、超高速光通信網の多分野にわたる学びを展開し、産業界で広く活躍できる技術者を育成します。時代に即した新しい視点で電気電子工学分野をとらえた独自の研究・教育がおこなわれる中、各自の興味に応じた科目を選択しながら最先端技術を体系的に学びます。変わりゆく時代の流れにも柔軟に対応できる人材となるよう、福祉等を含め人間の幸せそのものについて思い巡らせることのできる高い人間力を培うことも重視します。この理念に共感し、基礎学力を有し、電気電子分野に強い興味を持つ学生を受け入れます。

○ 環境化学科

資源の枯渇や地球温暖化、オゾン層の破壊など、地球規模での環境問題に直面している現代に求められるのは、かつてのような大量生産・大量消費による発展ではなく、「持続可能な発展」です。環境化学科では、地球環境を意識した上で化学と生物を基盤とした技術開発に従事し、その結果を社会貢献につなげていける技術者・研究者を育成します。「環境化学」「機能性高分子」「生物工学」「環境材料工学」の4分野を柱に多彩な実験を通して実践的な技術力を磨くとともに、新しい技術の研究も行います。この理念に共感し、環境問題に関心を持つ学生を受け入れます。

○ 機械工学科

日常的に利用するあらゆる機器を、いかに高精度、高効率、高機能化するかを考えていく機械工学分野において、今後の社会でいきものづくりを行えるようになるにはまず基礎をしっかりと固め、その後段階的に知識と技術を高めていくことが必要です。機械工学科では機械工学のみならず、情報、コンピュータ、メカトロニクス、光学、医用工学など、新たな分野を取り入れた教育研究を展開し、機械、制御、計測、材料、加工技術などの基礎と先端技術を修得し、科学技術者としての確かな能力と豊かな創造力を養うことを目指します。この理念に共感し、機械工学やその周辺技術に強い興味のある学生を受け入れます。

○ 情報通信工学科

コンピュータを中心とする情報系技術と、ネットワークや光ファイバをはじめとする通信系技術の両分野を網羅した情報通信工学を学びつつ、応用力と洞察力を備え、技術者として自立でき

る社会性をもった人材を育成します。いつでも、どこでも、誰でも快適に利用できるユビキタスネットワークの実現に貢献するエンジニアを育てるため、コンピュータや通信システムのほか、音響や画像の信号処理技術まで習得できる幅広いカリキュラムを用意しています。産業界とも積極的に交流しながら、学生自身の実力と個性を伸ばしていきます。この理念に共感し、情報通信工学に特に強い興味のある学生を受け入れます。

工学部第二部における入学者受け入れの方針

工学部第二部では、実社会で真に必要とされる高い能力を備えた技術者・研究者となるための学びを展開し、一人ひとりのライフスタイルにも対応できる充実したカリキュラムを備え、工学の基礎と実践的な技術の習得、広い視野を育てることを目指します。本学部を志望する理由が明確で、かつ入学後どのようなことを学びたいか明確であり、働きながら学ぶ意欲のある学生を受け入れます。

○ 電気電子工学科

電気電子工学はすべての産業に関わる基幹分野であり、環境問題や福祉の発展にも寄与する重要な学問です。本学科では、エネルギーやエレクトロニクス、回路、制御システム、コンピュータ、電子材料など多岐にわたる科目を用意し、豊かな未来を創造できる有能な技術者を育成します。この理念に共感し、電気電子分野に強い興味を持つ学生を受け入れます。

○ 機械工学科

未来を切り開く先端技術と、そのベースとなる基礎知識を確実に習得した上で、さらにそれらを応用し、新技術の開発までを視野に入れた研究教育を展開していきます。低学年次から開始される豊富な実験・演習により、「もてる知識の使い方、いかし方」も身につけることができます。この理念に共感し、機械工学やその周辺技術に強い興味のある学生を受け入れます。

○ 情報通信工学科

21世紀の科学技術の中で情報通信技術は中心的役割を担っており、その発展が大きく期待されています。本学科は情報系技術、通信系技術、情報メディア系技術の3つを柱にカリキュラムを編成し、「情報」について総合的に学ぶことで、学生の知力と意欲をさらに伸ばしていきます。この理念に共感し、情報通信工学に特に強い興味のある学生を受け入れます。

理工学部における入学者の受け入れ方針

理工学部は、人材養成の基本理念として、「未来型科学技術者の養成」と「人間性豊かな社会人の育成」を掲げている。すなわち、理学・工学・情報・生命・環境それぞれの分野の相乗的融合を図ることにより、時代に即した効果的な教育を推進し、幅広い教養と高度な専門性を備えるとともに、豊かな創造性・人間性を身に付けた人材を養成する。このような考え方のもとに、理工学部では、理工系分野に対する強い興味や探究心を持ち、大学で身に付けた知識・技術を活かして社会で活躍したいと願っている学生を受け入れます。

○ 理学系

理学は自然現象や数理の法則を探求し、それを体系的に記述し、理解する学問です。本学系は「数学」「物理学」「化学」「数理情報学」の4つの専門分野を設け、基礎を大切にしながらも幅広い応用力が身につけられるよう教育システムを構築しています。問題を本質的に捉えて解決できる創造性と専門性を備えた、21世紀の社会に求められる人材の育成を目指しています。理学分野(数学、物理、化学と情報科学)に強い関心があり、理学分野において将来社会に貢献しようと志す学生を受け入れます。

○ 生命理工学系

環境問題や医療・福祉問題は、21世紀の大きなテーマです。安全で快適な生活を維持していくには、生命のもつ高度な機能の本質を理解し、真に人類のためとなる社会やシステムを築いていかなければなりません。そのためにはさまざまな学問分野を融合した、新しい発想のアプローチが必要です。生命理工学系は、理学・工学・医学という従来の枠組みを超えた新たな教育研究分野を構築。これからの人間社会に対応できる、柔軟な応用力を身につけた人材を育成することを目的としています。この理念に共感し、生命理工学の分野に強い関心があり、熱心に勉学や研究に取り組む意欲がある学生を受け入れます。

○ 情報システムデザイン学系

人々が、互いに大量な情報を受発信可能とする情報通信の仕組みは、ポスト産業化の流れをますます加速し、世界的規模で社会構造を大きく変革しようとしています。情報システムデザイン学系では、「情報」に関する研究を総合的に行う「情報学」を学びます。「情報学」は対象とする領域が幅広く、情報、ネットワーク、コンピュータ、現代社会、表現創造など、さまざまな異なる分野から構成される学問です。したがって、本学系では、理学系、工学系、情報系、人文社会学系、芸術系など、バラエティ豊かな教授陣によって、専門知識と実践力を兼ね備えた情報学の専門家を養成します。本学系は、この理念に共感し、情報技術を学び、さらに文化、芸術、人間、

社会への幅広い視野を併せ持つ、総合的情報技術者を目指す学生を、積極的に受け入れます。

○ 電子・機械工学系

欧米では、「工学とは人類に対する奉仕」と理解されています。無医村で活躍する医療用ロボット、高齢者をサポートする福祉用ロボットなども、奉仕の気持ちがあるからこそ生まれたものといえるでしょう。つまり工学技術者には、専門知識だけでなく、人間性も兼ね備えていることが求められるのです。電子・機械工学系は、自動車、ロボット、電子機器、医療機器、福祉機器などのものづくりを通して、高度な技術や知識とともに豊かな人間性を有した、21世紀の社会に貢献できる技術者の養成を目標としています。この理念に共感し、機械、電子分野の学びをおおして、ものづくりに直結した自動車関連、宇宙関連、医療・福祉関連に強い興味のある学生を受け入れます。

○ 建築・都市環境学系

21世紀の循環型社会の実現に向けて、人間と自然が調和する環境を多角的に考察できる人材が求められています。建築・都市環境学系は、2つの専門コースを設け、建築学、土木工学、都市工学、環境学といった生活環境づくりに直結した学問分野で構成。社会が要請する構造物を造る技術、環境保全や環境予測に必要な知識、高度情報化社会に対応できる情報技術などを学び、「持続可能で安全な社会」の構築に貢献できる技術者を育てます。この理念に共感し、建築や都市環境の分野を志望する理由が明確であり、熱心に勉強や研究に取り組む意欲がある学生を受け入れます。

情報環境学部における入学者受け入れの方針

人と情報の関わりを探求し、人に優しい情報環境を提供できる技術者を育成する。さらに、情報技術の専門家の立場で指導できる人材を養成する。これらの人材を理系のみならず、文系を含めた広い分野から受け入れる。人と情報の関わりに興味と関心を持ち、情報化社会の著しい変化に対応し、新しいものを創造できる意欲を持っている学生を受け入れます。

○ 情報環境学科

さらなる進化を遂げていくことが予想される、21世紀の情報化社会。そこで求められるのは、確かな専門知識をベースにより快適な社会システムづくりを行うことができる、柔軟性のある人材です。ネットワーク・コンピュータと情報に関する幅広い学びを提供するとともに、特色ある教育方法を導入。学生自身の手で組み立てた学習計画のもと、自発的に学んでいける学習環境を整えました。それにより、実践的な知識だけでなく、自らを律する姿勢も身につけます。この理念を理解した上で共感し、将来、情報環境の分野で、高いレベルの専門性をもって活躍したいと強く希望している学生を受け入れます。

未来科学研究科における入学者受け入れの方針

未未来科学研究科は、東京電機大学の教育理念である「高度専門職技術者の育成」に沿って、未来社会における生活空間に対する確かな予見能力を持つ技術者の育成を目指し、学部・修士一貫の教育課程を編成しています。それにより未来科学部の教育・研究内容を発展させ、1. 実学尊重、2. 未来科学に関する高度な専門知識の習得、3. 独創性・創造性の育成、4. グローバル性の重視、5. 起業家マインドに富んだ問題の発見とその解決能力の涵養、6. 学際領域技術の重視を通し、社会に出て直ちに実戦力となるとともに、他分野の技術の心が理解できる、「プロの能力、豊かな教養」を身に付けたい学生を受け入れます。

○ 建築学専攻

情報の高度化、世界のグローバル化と高齢化が急速に進む中、限りある地球の生態環境といかにして持続共存するかが世界全体のテーマとなっている。未来科学研究科・建築学専攻は、「プロフェッショナルな能力と自然を五感で享受する豊かな教養」をあわせ持つクリエイティブな建築専門技術を身に付けた個性豊かな設計者・技術者・研究者を世に送り出します。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

○ 情報メディア学専攻

情報とメディアの研究領域の拡大、学際化、高度化、研究内容の発展を目指し、“工学としてのメディア学”を追究していきます。俯瞰的な視野から研究を遂行し先見性と創造力豊かな、専門科学技術者の育成を目指します。世界に通用するコミュニケーション能力をもち、学術研究を通して国際社会に貢献できるよう、教育・研究体制に十分配慮しています。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

○ ロボット・メカトロニクス学専攻

コンピュータおよび情報工学、電気電子工学、機械工学、制御工学などの基盤技術を相乗的に統合し、新領域にチャレンジできる人材を育成します。ロボット・メカトロニクス学専攻は、従来個別に研究されていた電気電子工学、機械工学、コンピュータ・情報工学、制御工学などの基盤技術を相乗的に統合し、それぞれを組み合わせることでさらに高い能力を発揮させることのできる新たな学問領域の構築を目指しています。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

工学研究科における入学者受け入れの方針

工学研究科は、学部教育で養った科学技術分野に関する知識を基礎とし、自然に対する好奇心とその摂理を理解、予測、制御するための道具としての基礎能力（学力）を身に付け、独創性をもってこれを実際に応用する研究・教育体制のもと、確かな基礎力と独創性、創造力のある研究能力と高い倫理観を育てます。本研究科は広く社会人に対しても積極的に門戸を開いており、修士課程の全専攻に昼夜開講制を実施するとともに、履修期間も2年に限らず3年でも選択できる社会人コースも準備し多様な履修方法の要求に対応し社会のニーズに合致した人材を受け入れます。

○ 電気電子工学専攻

電気電子工学専攻は、電気工学、電子工学、情報処理分野などが有機的に融合した学際領域における十分な基礎学力を涵養し、グローバルな視点と先進的・先端的研究能力を育成する研究教育の実践を目的とします。本専攻では、幅広い視野を持って研究を遂行する能力を養い、自立的で主体性のある創造性豊かな構想力を育てます。さらに、学術研究を通して国際社会への多大な貢献を目指します。これらにより、自ら発想した研究テーマを継続的かつ実践的に追求し、創造性・先見性と柔軟な思考力に溢れた技術者・研究者を育成します。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、先端研究の遂行能力や、高度で専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

○ 物質工学専攻

現代社会の発展を支えている高度先端技術の多くは新素材の開発によって達成されており、開発にあたっては物質に関する基礎知識、新しい物質を作る技術や合成する技術、さらに応用技術に至る、幅広く総合的な知識が求められます。物質工学専攻では従来の学問体系にとらわれることなく、幅広い学際的見地に立って新素材に関する基礎物性理論から応用技術に至るまでを総合した学問体系のもとで教育・研究を行います。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

○ 機械工学専攻

機械工学専攻では、学部教育で培った機械技術および機械システムとその周辺分野に関する多様な基礎知識を有機的に統合し、科学技術の進歩に対応できる思考力を持ち、先見力と創造力豊かな科学技術者の育成を行います。あらゆる産業が機械工学の分野の優れた科学技術者を求めており、これからますます活躍の舞台が広がっていきます。日本と世界が直面している多種多様な技術的課題に積極的に取り組み、世界を視野に入れ、産業の核となって活躍できる科学技術者を育成します。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

○ 情報通信工学専攻

情報通信工学専攻では、学部で培った情報・コンピュータ技術と通信技術の両分野に関する基礎から応用までの総合的知識をさらに発展・深化させ、情報通信分野における研究能力及び高度の専門性を有する人材を育成します。進展する情報化社会を支えるのは、情報と通信の技術に関する基礎知識を身につけているだけでなく、技術を社会のさまざまな分野に応用できる人材です。そのために本専攻では学生の熱意を尊重し、新しい領域に積極的に取り組めるよう環境を整え指導をしています。このような理念に共感し、幅広く深い学識を通して、研究開発職あるいは高度な専門職に従事できる能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

以 上

理工学研究科における入学者受け入れの方針

理工学研究科は、急速に進化する科学技術と多様化する価値観に対応できる高度専門科学技術者・職業人の養成を目的としています。そのために、理工学の専門分野における基礎力を強化すると共に、専門の教育・研究を通して多分野を眺められる視野の広い科学技術者・職業人の育成に努めます。すなわち、知識を集積するだけでなく、問題意識を持ち、自ら考え、問題解決力、応用力を養う教育を実践し、創造性豊かな人材を育成します。このような考えのもと、高度な専門技術者として社会で幅広く活躍したい学生を受け入れます。

○ 理学専攻

理学専攻では、21世紀の科学技術創造立国に向けて、その基礎を担うべく自然科学の研究を精力的に行うとともに、専門的知識・技能及び数学的・論理的思考力を身に付けた専門的技術者を育成することで、将来の科学技術社会のさらなる発展に貢献します。本専攻では、数学を駆使し論理的な思考法を身につけたシステム設計・構築技術や、物質の性質を実験データの解析によって解明する能力・経験をもつ専門技術者、さらに自然科学の高度な知識を身に付けた教員の養成等を目的とします。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

○ 情報学専攻

情報学専攻は、情報学に関する分野横断的・複合的な教育研究を通じて、21世紀の基幹産業である情報産業の発展の礎となる人材を育成し、さらに情報学に関する新しい学問分野の創出を目的としています。情報学は理工学から社会科学・人文科学の領域にまで拡大した学際的な学術分野であり、数理科学に基づく情報やコンピュータの基礎と応用、効率的・創造的な情報システムの開発、人間・社会に関する深い洞察に基づく情報デザインの各専門分野を含んでいます。本専攻の各教員は独自の教育研究の領域ばかりでなく、複数の学際的な教育研究の領域を活かし、広い視野に立つ研究指導を行います。これにより、真に人間の幸福を醸成できる総合的情報学の高度な知識と技術を身につけた人材を育成することを目指しています。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

○ デザイン工学専攻

デザイン工学専攻は、現在の技術の高度化とそれに支えられた社会の維持、さらに国際競争の中で勝ち残っていくために、コンピュータ支援技術をベースにしたメカトロニクス、インテリジェント設計、都市及び建築デザインといった高度なデザイン工学を学ぶ技術者の育成を目指しています。人間と建築物、機械等とのインターフェイスを考えることのできる良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質、感性を持ち合わせ、また、国際的なフィールドで活躍のできる人材の育成を大きな目的としています。本専攻は、機械、電気・電子、建築、土木、環境分野において、それぞれの工学基礎知識を生かした専門性の高い、グローバルな設計開発エンジニアの教育を進めます。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

○ 生命理工学専攻

生命理工学専攻は、生命・環境科学分野と生体医工学分野を二本柱とし、学部で学んだ各専門分野をさらに深化させ専門性の確立を図り、各専門分野で活躍できる研究者・技術者の育成を目標とします。

本専攻の教育課程編成は、建学以来の伝統を守りつつ、近年の高度化、多様化する生命・環境科学分野及び生体医工学分野で活躍できる研究者・技術者の養成を目的とし、遺伝子治療、人工臓器、医療・福祉機器など人間の健康な生活を支える技術の開発、さらに生物機能を利用した安全で有用な物質の生産ならびに食品や生物資源の開発を目指す研究者や技術者を養成します。この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

情報環境学研究科における入学者受け入れの方針

情報環境学研究科は、自主・自立の精神と国際化対応力、創造力豊かで独創性を兼ね備えた人材を養成するという情報環境学の理念を継承しつつ、情報環境という学問分野の観点から。高度な情報技術に関する専門知識を修得し、研究能力を育成する。また、情報関連の学術の発展と今後社会に必要とされる動向を見据え、21世紀に活躍できる情報に関する高度専門技術者を育成します。その考えをもとに、社会で幅広く活躍したい学生を受け入れます。

○ 情報環境学専攻

情報環境学専攻は、産業界から期待される、「独創性が重要となる研究能力」、「新規性が重要となる開発能力」、「最新の幅広い技術知識が必要な調査・企画能力」に対処すべく、最新技術の研究・開発・応用のリーダーとなる人材の育成を目的とします。「研究開発に必要な発想法の基本」や「問題発見・解決能力」「優れたプレゼンテーション能力」「情報収集・解析能力」「協調して仕事ができるコミュニケーション能力」のうち、希望進路と適性に応じたバランスの取れた能力を持つ人材を育成します。

この理念に共感し、幅広く深い学識の涵養を図り、研究能力又は高度な専門的な職業を担うための卓越した能力を身につけたいと考えている学生を受け入れます。

先端科学技術研究科における入学者受け入れの方針

先端科学技術研究科博士課程（後期）は、産官学を通してあらゆる研究教育機関を担うために、国際的にも高い水準の研究環境の中で、広い視野を持ち自立して研究活動を行うに足りる能力を修得させ、創造性豊かな研究開発能力を持つ研究者や、確かな教育能力と研究遂行能力を兼ね備えた大学教員の養成を目的としています。そして、これからますます要請される学際融合領域研究および国際共同研究の進展に必要な研究活動の融合・連携・流動化・新分野の開発に迅速な対応が可能となっています。

その考えをもとに、研究者として社会等で幅広く活躍したい学生を受け入れます。

○ 数理学専攻

数理学専攻は、基礎科学の柱である「数学」と「化学物理学」を融合的にとらえ、複雑化・大規模化する工学や、人間社会をモデル化して得られるシステムの理論と具体的計算手法などを、数理的立場から研究教育を行うことを目的としています。先端科学技術研究科の他の専攻と連携しながら基礎分野としての数理学の研究教育を進め、数理学分野における創造性豊かな科学者や高度な専門性を持つ人材の育成を目指します。この理念に共感し、数理学の広い学識を得て研究者として自立して研究活動を行う、もしくは高度な専門性が求められる社会で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ 電気電子システム工学専攻

電気電子システム工学専攻は、電気工学、電子工学、情報処理分野のみならず、それらが融合した学際的領域において、基礎的・先端的な研究教育を行うことを目的とします。電気電子システム工学に関する広範な知識だけでなく、特定専門分野の極めて高度な学識を修得し、自ら発想した研究テーマを継続的かつ実践的に追求し、創造性・先見性と柔軟な思考力を身に付けた研究者、上級技術者を育成します。常に地球的・世界的な視野を持って研究を遂行する能力と、自立的で主体性のある創造性豊かな構想力の資質・能力を養い、学術研究をとおして国際社会への貢献を目指します。この理念に共感し、研究者として自立して研究活動を行う、もしくは高度な専門性が求められる社会で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ 情報通信メディア工学専攻

情報通信メディア工学の関連分野において基礎的・先端的な学術研究を推進し、世界的な視野と自立性を持って、多様な分野で研究活動が行える人材育成を目的とします。情報通信メディア工学や特定専門分野に特化した学識を習得し、高度な技術開発テーマや理論解析テーマを実践的に追求し、技術の萌芽を産み出せる先見性と創造性に富んだ研究者・上級技術者を育成します。

俯瞰的な視野から研究を遂行する能力や、自立性、主体性、創造力、構想力等の資質・能力を養うとともに言語能力も磨き、国際社会に貢献できる人材育成を目指します。この理念に共感し、研究者として自立して研究活動を行う、もしくは高度な専門性が求められる社会で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ 機械システム工学専攻

機械工学および関連するシステムの分野において、基礎研究を中心に実用的応用のできる研究成果を目指します。機械工学を中心とした電気、電子工学、情報工学などとの境界領域での先端研究とその実用化を推進し、革新的な技術創成に寄与する中核的な研究教育組織として、社会的な役割を果たします。

研究を基盤として、現代社会の抱える技術的課題の解決に寄与できる人材を育成します。この理念に共感し、研究者として自立して研究活動を行う、もしくは高度な専門性が求められる社会で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ 建築・建設環境工学専攻

建築・建設環境工学専攻は、21世紀の成熟した社会の構築・整備のために、建築・土木・環境を個々に研究する従来型の学問ではなく、これらを融合した新しいパラダイムの技術者育成を目的とします。

新しいパラダイムに基づき、国土保全と都市再生を地球環境問題も考慮したグローバルな視点から考究できる技術者・研究者を育成し、複雑化・多様化する社会で要求される問題解決能力を具備する人材を輩出します。建築・土木・環境の各分野で蓄積された知識や技術の交流と融合を通じて、建築・都市・土木・環境の多種多様な問題を俯瞰的な視点から解決できる能力を高めます。この理念に共感し、研究者として自立して研究活動を行う、もしくは高度な専門性が求められる社会で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ 物質生命理工学専攻

物質生命理工学専攻は、地球環境、資源、エネルギー、福祉など、社会の発展に伴う諸問題に対処するため、従来の物質工学、生命工学、環境学などの領域を統合し、人間・工業・社会の全体を見通せる学問領域を再構築することを目的とします。本専攻では「人」と「物」の融合を目指し、生命工学部門と物質工学部門を融合。基盤技術から応用技術に至るまで、一貫した学問体系のもとで研究・教育を行います。特定の領域だけでなく、広い視野を持ち、自立して研究のできる創造性豊かな研究者・上級技術者の育成を目指します。この理念に共感し、研究者として自立して研究活動を行う、もしくは高度な専門性が求められる社会で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ 先端技術創成専攻

先端技術創成専攻は、人間の生産活動、生活、医療、福祉、防災などの分野と科学技術との境界領域的な分野において、現状の高度技術を発展させるとともに次世代の新技术を創成する、指導力と国際性のある人材を育成することを目的としています。人間に関する科学技術分野の教育研究に重点を置き、それらの研究を通して教育と研究指導を行います。人間の活動を科学技術によって支援する立場から、人間の器官や機能への電子機械的支援、人間と機械との相互関係・協調・共生、人間の活動環境の向上を目指す防災・安全性に関する課題などを考究します。この理念に共感し、研究者として自立して研究活動を行う、もしくは高度な専門性が求められる社会で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

○ 情報学専攻

情報学専攻は、情報技術の進歩・発展によってIT社会が求める高度な研究開発能力を備えた人材を育成します。高度情報化社会において基礎となる情報科学と、情報を社会で活用するためのメディア情報学の研究教育を目的とします。これまでの情報工学を中心とした高度専門教育だけではなく、基礎となる情報科学を修得し、情報をいかに社会に活用していくかについて研究教育を行い、高度な専門性と幅広い見識を備えた創造性豊かな研究者、技術者、科学者を育成します。この理念に共感し、研究者として自立して研究活動を行う、もしくは高度な専門性が求められる社会で活躍したいと考えている学生を受け入れます。

東京電機大学の「教育課程編成・実施の方針」

1. 大学（学部）【学士課程】

東京電機大学は建学の精神「実学尊重」に則り、社会の第一線で活躍できる科学技術者の育成を目指し、講義ばかりでなく演習・実験（実習）などを重視し、身近な科学技術に着目する機会を多く設け、科学技術の面白さを体験しながら学問を習得する教育を展開しています。また、講義と演習・実験のほか、課題解決型学習（PBL）を取り入れ、解決方法論を身につける教育の展開を図っています。さらに、教育・研究理念「技術は人なり」に基づき、専門科目と、急激に進化する科学技術に適応する能力を身につけための基礎科目、幅広く深い教養及び総合的な判断力と豊かな人間性を育むための一般教養科目と、科学技術者としての倫理性を培うことを目的とした科目を数多く配当し、充実した教育課程を編成しています。

今日、大学進学率は上昇傾向にあり高等教育のユニバーサル化が進み、さらに高等学校段階までの教育内容の変化等により、高校と大学における接続教育が必要となる中、本学の教育課程においても、能力別教育を行い向学心が旺盛な学生の能力を一層引き出すとともに、学力に不安な学生には補習教育を行い、早期に基礎を固めるなど、多様化教育への対応を図っています。

以上の考え方にに基づき各学部における教育課程を編成し実施しています。

2. 大学院（研究科）【大学院課程】

高度な技術社会においては、問題発見・解決能力が科学技術者に要求されますが、そのためには専門基礎ばかりではなく、より高度な専門知識の習得が必要となります。

修士課程においては、学士課程で学んだ基礎知識をさらに発展させ、社会が直面している問題を様々な側面から洞察する力を備え、さらに進化した専門知識を習得するために、高度な専門性を有するカリキュラムを編成しています。

博士課程（後期）においては、高度な専門知識を有し、かつ自立した研究者を育成するために、専門分野の研究のほか、先端的な講義に加え個別指導を含むカリキュラムを編成しています。

以上の考えに基づき、各研究科における教育課程を編成し実施しています。

東京電機大学の「学位授与の方針」

1. 大学（学部）【学士課程】

東京電機大学は、建学の精神「実学尊重」と教育・研究理念「技術は人なり」を掲げており、「科学技術で社会に貢献する人材の育成」を使命としています。科学技術とは社会が直面している問題を工学的に応用し解決するための手法であり、グローバル化した現代社会の問題を解決するためには、幅広い分野の知識と技術を統合する必要があります。本学では、科学技術の専門知識を有するだけでなく、科学技術の進歩が社会に与える影響や、科学技術と人との関わり方について深く考察できる実践的科学技術者を育成します。

学位授与の要件は、所定の期間在学し、各学部の教育・研究理念及び人材養成の目的に沿って編成された講義・演習・実験（実習）科目等から卒業に必要な単位を修得することです。

2. 大学院（研究科）【大学院課程】

東京電機大学は、「実学尊重」を建学の精神とし、高度な科学技術を創造・伝承することにより、“科学技術の総本山となる”ことを目標としています。博士・修士課程においては、学士課程において修得した能力をさらに発展させ、各専門分野における問題を自立して解決できる高度専門職業人を育成します。

修士課程においては、先端的な専門知識を修得すると共に、専門分野における基礎的な問題を自立的に解決する能力を備えた科学技術者を育成します。学位授与の要件は、所定の期間在学し、各研究科の教育・研究理念に沿って編成された教育課程から必要な単位を修得し、論文審査（専攻により論文審査に代わる特定の課題についての研究の審査）に合格することです。

博士課程（後期）においては、高度な専門性を要求される問題の解決能力や、研究者として自立できる自発的能力を備えた科学技術者を育成します。学位授与の要件は、所定の期間在学し、先端科学技術研究科の教育・研究理念及び人材養成の目的に沿って設定された講義科目から必要な単位を修得し、論文審査に合格することです。

以 上